

言葉の発達

発語に関する質問を受けることがあります。「1才になったのに、まだ言葉がでません、異常ですか？」言葉の発達は坐る、立つなどの運動発達以上に個人差が大きく判断は難しくなります。今回は赤ちゃんから幼児にかけての言葉の発達について。

誕生直後の赤ちゃんは喉が狭いので声はよく出せません。生後 2~3ヶ月頃から喉が広がって「アー」とか「ウー」とか声が出るようになります。半年頃から盛んに声を出すようになり、10ヶ月過ぎると「マンマ」「ママ」など意味のある単語が出て来たりします。その後も言語発達は緩やかで1才半頃までの単語数の増加は10~15個程度ですが、言語理解が向上する2才前になると50単語/月と飛躍的に使える単語数が増加する「語彙爆発」を迎え、2才過ぎると単語がつながる2語文（ワンワン来た）となり、3才頃には「きれいね」などの感情表現ができるようになります。

この発達過程で、標準より半年程度の遅れ（1才半で単語がでない）があると調べてみる理由になります。話しかける中で①音に対して反応しない（聞こえの問題）②話しかけても興味を示さない（自閉症）③理解しているようだが言葉が出ない（構音障害）等があれば検査が必要かもしれません、かかりつけの先生にご相談下さい。

赤ちゃんは顔を見て話しかけると嬉しそうに声を出します。答えてくれる人がいると赤ちゃんは俄然やる気を出していっそう喋ってくれます。TVからの音ではこうはいきません。赤ちゃんにとって意味のある相手と意味のあるやり取りの中で音の違いを聞き分けるようになり、言語能力は発達します。どんどん話しかけてあげて下さい。